R言語事始め

プログラミング言語「R」とは



The R Project for Statistical Computing

[Home]

Download

CRAN

R Project

About R Logo Contributors What's New? Reporting Bugs Conferences

Search
Get Involved: Mailing Lists
Get Involved: Contributing
Developer Pages
R Blog

R Foundation

Foundation

Getting Started

R is a free software environment for statistical computing and graphics. It compiles and runs on a wide variety of UNIX platforms, Windows and MacOS. To **download R**, please choose your preferred CRAN mirror.

If you have questions about R like how to download and install the software, or what the license terms are, please read our answers to frequently asked questions before you send an email.

News

- R version 4.5.0 (How About a Twenty-Six) prerelease versions will appear starting Tuesday 2025-03-11. Final release is scheduled for Friday 2025-04-11.
- R version 4.4.3 (Trophy Case) has been released on 2025-02-28.
- The useR! 2025 conference will take place at Duke University, in Durham, NC, USA, August 8-10.
- We are deeply sorry to announce that our friend and colleague Friedrich (Fritz) Leisch has died. Read our tribute to Fritz here.
- R version 4.3.3 (Angel Food Cake) (wrap-up of 4.3.x) was released on 2024-02-29.
- · You can support the R Foundation with a renewable subscription as a supporting member.

R言語の開発を行っている The R Project for Statistical Computingのトップページ. Rに関する基本的な情報のほか、最新のリリース情報やマニュアルの閲覧ができる.

- ・統計解析やデータ分析に特化したオープンソースのプログラミング言語
- 強力な可視化ライブラリ(ggplot2 など)や統計モデリング機能が充実しており、 研究・データサイエンスの分野で広く利用されている

R言語の起源と歴史







Ross Ihaka

Robert Clifford Gentleman (写真はwikipediaより引用)

- Ross IhakaとRobert Clifford Gentleman(オークランド大学)によって、S言語(AT&Tベル 研究所が開発)という統計解析言語を参考に1990年代前半に開発
- 1995年にGNU GPLライセンスのもとで公開され、オープンソースプロジェクトとして成長
- 1997年には統計学者のコミュニティ R Core Team (現在の公式サイト)が結成され, 公式 な開発がすすめられた.

R言語の起源と歴史







Ross Ihaka

Robert Clifford Gentleman (写真はwikipediaより引用)

- 2000年代以降、統計分析やデータサイエンス分野で広く採用されるようになり、多数の パッケージが開発される
- 特に、<u>tidyverse</u>(Hadley Wickhamらによる)などのエコシステムが拡充され、データ解析 可視化がより強力になった
- 現在も進化を続け、機械学習やベイズ統計などの分野でも活用されている

R言語の基本的な特徴

- 統計解析に特化: Rは統計解析・データ分析向けに設計されており、多様な統計手法を標準でサポート
- **オープンソース**:無料で利用可能.ソースコードが公開されているため誰でもカスタマイズ 可能
- **インタープリタ言語**: コードを(逐次解釈しながら)対話的に実行できるため、データ分析の 試行錯誤がしやすい

<u>対話的な実行の例</u> # 1行ずつ実行可能 a <- 5 b <- 2 c <- a * b print(c) # 10

- 上から1行ずつ実行可能
- 実行後すぐに c の値を確認できる

R言語の基本的な特徴

- 統計解析に特化: Rは統計解析・データ分析向けに設計されており、多様な統計手法を標準でサポート
- **オープンソース**:無料で利用可能.ソースコードが公開されているため誰でもカスタマイズ 可能
- **インタープリタ言語**: コードを(逐次解釈しながら)対話的に実行できるため、データ分析の 試行錯誤がしやすい

<u>逐次解釈の例</u>

```
x <- 10 # ここまでは問題なく実行される y <- x + z # z が未定義なのでここでエラー発生 print("Hello, R!") # ここには到達しない
```

実行結果(エラ一発生)

Error in x + z: object 'z' not found

- x <- 10 は正常に実行される
- y <- x + z で z が未定義のため エラーが発生
- エラー発生後以降のコードは実行 されない

(補足)インタープリタ言語であることのデメリット

- 実行速度が遅い
 - インタープリタ言語はコードを逐次解釈しながら実行するため、コンパイル済みの言語(C, C++, Java など)に比べて処理速度が遅くなりがち
 - ループ処理 (for, while) や大規模データ処理ではパフォーマンスが低下することがある

対策 C++と連携 (Rcpp): 計算量の多い部分を C++で記述し高速化

- メモリ効率が悪い
 - Rはメモリ内でデータを処理するため、大規模データの処理時にメモリ消費が大きくなる
 - 例えば数百万行のデータを扱う場合、RAMの消費が激しくなり処理が遅延・クラッシュする可能性がある

対策 データベース連携 (DBI, data.table): メモリ負荷を減らし大規模データ処理を効率化

- 並列・分散処理が標準では弱い
 - Rはシングルスレッドでの実行が基本であり、並列処理のサポートは限定的

対策 parallel, future などの並列計算用パッケージを利用して処理速度を向上

(補足)インタープリタ言語であることのデメリット

- エラーハンドリングが弱い
 - Rは実行時にエラーが発生すると即座に停止することが多く, 例外処理 (tryCatch) を適切に記述しないとエラー耐性が低い
 - コンパイル型言語ではコンパイル時にエラーが検出されるが、Rでは実行時にエラーが出るためバグ が見つかりにくい
- コードの最適化が難しい
 - インタープリタ言語ではコンパイラによる最適化が行われないため、コードの書き方によってはパフォーマンスが大幅に低下することがある
 - ベクトル化 (apply, lapply, map など) を意識しないとループが遅くなりがち

対策 ベクトル化 (apply, dplyr): ループを避け、最適化された関数を利用

インタープリタ言語であるRのメリット・デメリットを正しく認識認識して、快適なRコーディングライフを送りましょう

R言語の特徴:豊富なパッケージとエコシステム

- <u>CRAN (Comprehensive R Archive Network)</u> による数千種類のパッケージ
- tidyverse: ggplot2, dplyr などデータ操作・可視化を効率化するパッケージ群
- 機械学習ライブラリ: randomForest, xgboost など多様なML手法をサポート

Available CRAN Packages By Name

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

Accurate, Adaptable, and Accessible Error Metrics for Predictive Models

Conditional Aalen-Johansen Estimation

Reliability and Scoring Routines for the Approach-Avoidance Task Apps Based Activities for Communicating and Understanding Statistics

Coding 'ABA' Patterns for Sequence Data

Readable String Abbreviation

A3

AalenJohansen AATtools

ABACUS

abasequence

abbreviate

abc.data

abclass

abcrf

abcrlda

abctools

abd

abdiv

abess

aberrance

ABC.RAP

ABCoptim

ABCanalysis

Tools for Approximate Bayesian Computation (ABC)

Data Only: Tools for Approximate Bayesian Computation (ABC)

Array Based CpG Region Analysis Pipeline

Computed ABC Analysis

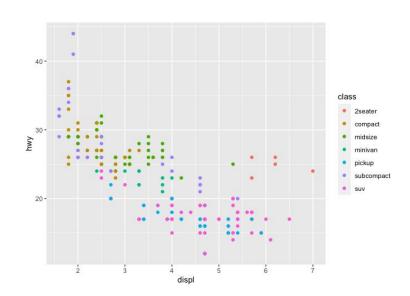
Angle-Based Large-Margin Classifiers

Implementation of Artificial Bee Colony (ABC) Optimization Approximate Bayesian Computation via Random Forests

Asymptotically Bias-Corrected Regularized Linear Discriminant Analysis

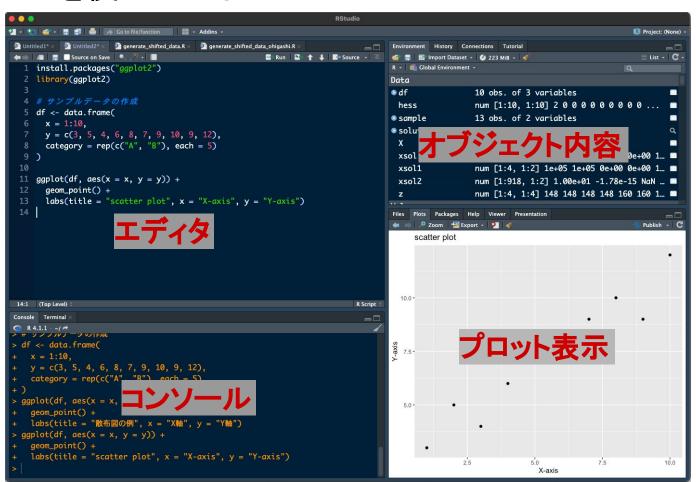
Tools for ABC Analyses
The Analysis of Biological Data
Alpha and Beta Diversity Measures
Augmented Backward Elimination
Detect Aberrant Behavior in Test Data

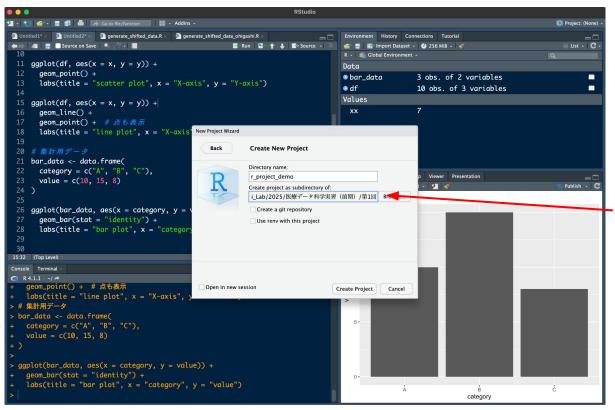
Fast Best Subset Selection



ggplot2による可視化の例

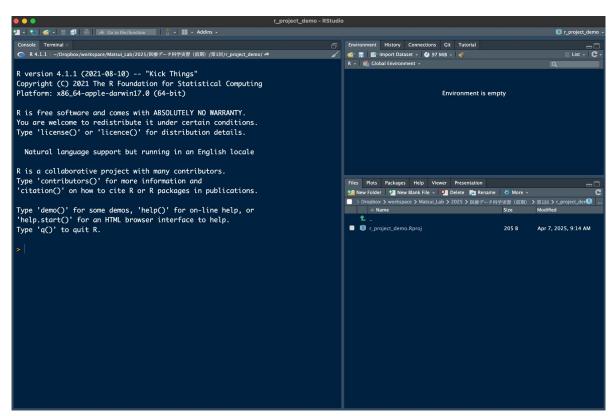
2. R言語超入門





新しいプロジェクトの始 め方:

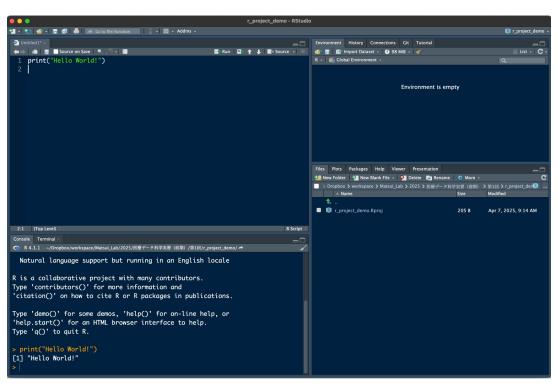
- File -> New Project
- New Directory
- 新しいプロジェクトを置く親ディレクトリ (下)と作業ディレクトリ(上)を指定



新しいRスクリプトの作り 方:

File -> New File -> R Script

新しいプロジェクトの初期画面



演習: 実行方法1-3全てでHello Worldを表示せよ

Rの実行手順の例: エディタ or コンソールに print("Hello World!")

と記述

[実行方法 1]

コンソール上でEnter

[実行方法 2]

以下のコマンドで実行

- Ctrl+Enter (Windows)
- command+return (Mac)

[実行方法 3]

File->Save asでセーブした 後にSourceボタン

エディタ

```
generate shifted data ohigashi.R
                     generate shifted data.R
                                                        Run The Source
       🔚 🗌 Source on Save 🔍 🎢 🗸 📳
   install.packages("ggplot2")
   library(ggplot2)
    df <- data.frame(
     x = 1:10
     y = c(3, 5, 4, 6, 8, 7, 9, 10, 9, 12),
      category = rep(c("A", "B"), each = 5)
   ggplot(df, aes(x = x, y = y)) +
      geom_point() +
      labs(title = "scatter plot", x = "X-axis", y = "Y-axis")
13
   (Top Level)
```

- プログラムコードを記述するテキストエディタ部分
- 実行したい行にカーソルを合わ せてRunボタンで実行
- 選択行 or ドラッグした領域の実 行は
 - Ctrl+Enter (Windows)
 - command+return (Mac)

演習:四則演算をエディタで記述して実行せよ

コンソール

```
Console Terminal ×

R 4.1.1 - / →

> df <- data.frame(
+ x = 1:10,
+ y = c(3, 5, 4, 6, 8, 7, 9, 10, 9, 12),
+ category = rep(c("A", "B"), each = 5)
+)

> ggplot(df, aes(x = x, y = y)) +
+ geom_point() +
+ labs(title = "scatter plot", x = "X-axis", y = "Y-axis")

> View(df)

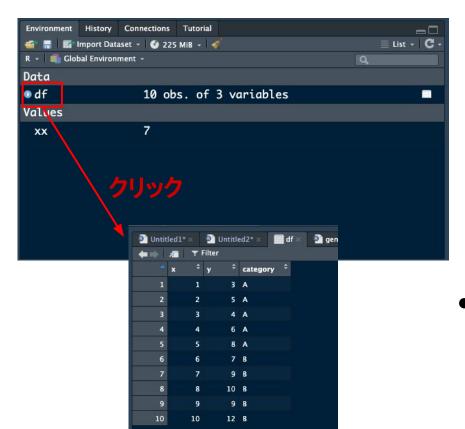
> xx <- 3+4
> xx

[1] 7
>
```

- プログラムコードの実行画面
- エディタ上で実行したプログラム コードと実行結果が表示される
- コンソール上で直接プログラムの記述と実行も可能 (生Rのコンソールと同じ)

演習:四則演算をコンソールで 記述して実行せよ

オブジェクト内容



- プログラムで生成されたオブジェクトの一覧
 - Data: データ構造型オブジェクト
 - データフレーム (data.frame)
 - マトリクス (matrix)
 - リスト(list)
 - 配列(array)
 - Values: スカラ・ベクトル型オブジェクト
 - 数値(numeric)
 - 文字列(character)
 - 論理値(logical)
 - ベクトル (atomic vector)
- オブジェクト名をクリックするとエディタに中 身が表示される

補足: DataとValues

演習:Rの変数とデータ型 ■

種類	表示カテゴリ	内容例	表示方法
numeric	Values	x <- 10	<pre>print(x)</pre>
character	Values	name <- "R"	<pre>print(name)</pre>
vector	Values	v <- c(1,2,3)	<pre>print(v)</pre>
data.frame	Data	<pre>df <- data.frame()</pre>	View(df)
list	Data	<pre>l <- list(a=1, b=2)</pre>	str(l)

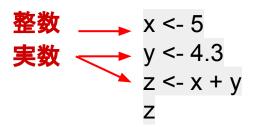
Dataに分類されるオブジェクトの例:

データフレーム df <- data.frame(name = c("A", "B"), score = c(90, 85))

Valuesに分類されるオブジェクトの例:

数値やベクトル x <- 5 y <- c(1, 2, 3)

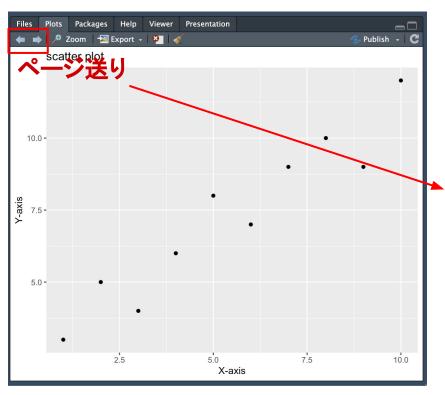
補足:Rは変数の型宣言や配列宣言は不要



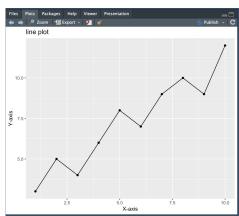
- このように書くと、自動的に x, y, z は numeric 型になる(C言語など他のプログラミング言語のように変数の型を明示的に考えなくても良い)
- (厳密には)numeric 型の変数には integer 型(整数型)とdouble 型(倍精度浮動 小数点型, 簡単にいえば実数)がある
 - 自分で作成する numeric 型のベクトルはすべて double 型になる
 - 整数型のベクトルを作成したいときは、数値の後ろに L を付けることでそれを 整数として扱うことを宣言する:x <- 5L

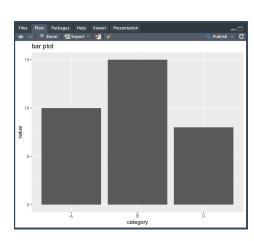
演習: double 型とinteger 型の変数を定義し型を確認せよ(typeof()を使う)

RStudioを使ってみる プロット表示



- プログラムで生成されたプロットファイルを 表示
- これまで作成したプロットは ジ送り表示できる





実行結果の外部ファイルへの出力と外部ファイルからの読み込み

- Rでは write() や cat(), write.csv() 関数などを使って文字列や変数, データフレームの内容を外部ファイルに出力できる.
- 外部ファイルは readLines() や read.csv() でR内に読み込むことができる

演習:次のコードをRStudioで実行し、結果を確認せよ

1. message <- "これはRから出力されたメッセージです。" # 文字列をテキストファイルに書き込む

```
write(message, file = "output_message.txt")
```

- 2. cat("行1\n行2\n行3", file = "output_lines.txt") # 複数行を cat() で出力
- 3. readLines("output_message.txt") # テキストファイルを読み込む

<u>実行結果の外部ファイルへの出力と外部ファイルからの読み込み</u>

- Rでは write() や cat(), write.csv() 関数などを使って文字列や変数, データフレームの内容を外部ファイルに出力できる.
- 外部ファイルは readLines() や read.csv() でR内に読み込むことができる

演習: 次のコードをRStudioで実行し、結果を確認せよ

- df <- data.frame(Name = c("Alice", "Bob"), Score = c(90, 85))
 write.csv(df, file = "scores.csv", row.names = FALSE)
- 2. read.csv("scores.csv") # CSVファイルを読み込む

実行結果の外部ファイルへの出力と外部ファイルからの読み込み

- Rでは write() や cat(), write.csv() 関数などを使って文字列や変数, データフレームの内容を外部ファイルに出力できる.
- 外部ファイルは readLines() や read.csv() でR内に読み込むことができる

演習: 次のコードをRStudioで実行し、結果を確認せよ

- 1. 任意の文字列を変数に代入し, それを cat() を使って my_message.txt に保存せよ
- 2. 好きな名前と点数からなるデータフレームを作成し、それを my_scores.csv という名前で保存せよ
- 3. 作成したCSVファイルを読み込み,内容を表示せよ

Rによる数値計算とベクトル演算

演習: Rの変数とデータ型 ■

● Rでは、ベクトル演算を活用することで繰り返し処理を大幅に効率化できる(むしろこれを使わないと非常に処理が遅い)

例:1千万要素の和の計算

ベクトル演算を使用

```
# ベクトルを準備
x <- runif(1e7)
y <- runif(1e7)

# 2. ベクトル演算による加算
system.time({
  result_vec <- x + y
})
```

計算時間(colab):0.164 (sec)

forループで計算

```
system.time({
    result_loop <- numeric(1e7) # 初期化
    for (i in 1:n) {
        result_loop[i] <- x[i] + y[i]
        }
    })
```

計算時間(colab): 1.492 (sec)